

## 「障害」の表記を平仮名交じりの「障がい」とする考えは

**問** 「障害」の表記について、「害」の字が持つイメージの悪さから、近年では平仮名交じりの「障がい」表記を使用する自治体が増えているが、①本市の組織名称における対応は。②広報ぬまづや市ホームページにおける対応は。

**答** 市長／①本市では、これまで国における基本的な取扱いに倣い、行政全般において常用漢字の「害」の字を使用してきたが、近年では平仮名交じりの表記が広く一般に浸透してきていることなどを踏まえ、ともに、障害のある人の気持ちに寄り

添い、障害のある人もない人も、共に心豊かに暮らせる共生社会を目指していく本市の姿勢を明確に示すため、令和四年度の組織改正において障害福祉課の名称変更を検討するなど、今後、平仮名交じりの表記の使用を進めていく。

**福祉事務所長**／②法令や国の公用文などの公的な取扱いの際には常用漢字により表記するものとされているため、このことを考慮しつつ、広報ぬまづ等における一般的な取扱いについては、平仮名交じりの表記を使用するよう検討していく。

尾藤 正弘



## 性の多様性に配慮した学校のトイレの整備は

**問** 性の多様性に配慮した学校のトイレの整備に対する考えは。

**答** 教育次長／性的マイノリティーである児童生徒のトイレの使用については、個々の事案に応じ職員用トイレや保健室のトイレを使用するなど、児童生徒の心情に配慮したきめ細やかな対応を行っている。誰でも気兼ねなく利用できるトイレの導入については、国の動向を注視しつつ、調査研究していきたいと考えている。

**答** 教育次長／児童生徒が健康的に活動できるよう学校施設の衛生環境を保つことは重要であると考えているが、トイレ環境の整備には、スペースの確保など課題が多い。そのため、消毒の徹底などの感染症予防対策を継続しつつ、今後、学校施設の改築・改修等の機会を捉え、ドライ化や多機能トイレの設置などを進めていきたいと考えている。

霞 恵介



▲学校の改修等の機会を捉え順次トイレの整備を行っている

## 第一・第二中学校区の学校統合の方針を廃止した経緯は

**問** 第一・第二中学校区における学校統合の方針を廃止した経緯は。

**答** 教育長／第一地区コミュニティ推進委員会から、統合方針の撤回に対する要望及び署名活動は第二地区コミュニティの総意で行っているものであり、方針を撤回しない限りは、自治会などの下部組織に対する地域懇談会の実施を拒否する旨の申出があった。このような状況の中、第一地区連合自治会及びPTAから、第二地区のみで協議していた状態に戻してほしいとの要望書が提出された。両地区が統合方針の撤回を求める状

梶 泰久



## 地域貢献を渴望しているふじのくに防災士との連携は

**問** 地域貢献を渴望しているふじのくに防災士との連携は。

**答** 危機管理監／自治会からの要請に応じてふじのくに防災士の紹介を行うとともに、自主防災組織で実施される訓練や防災イベント等において活動内容を紹介し、ふじのくに防災士が地域の防災活動に参画しやすい環境づくりに努めていく。また、ふじのくに防災士相互の連絡体制の確立及び地域防災の発展に寄与することを目的に設立されたふじのくに防災士会と、地域の防災訓練への講師としての派遣等について協議して

況においてこのまま統合を進めることは、子供や保護者、地域全体にマイナスの影響を及ぼす懸念があることから、統合方針の廃止という苦渋の決断をせざるを得なかったものである。

**問** 今後の学校規模・学校配置の適正化の推進に係る本市の考えは。

**答** 教育長／沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針において、早期に取り組む必要がある校区においては、児童生徒数を注視しながら、保護者や地域住民に丁寧な説明をした上で進めていく。

渡部 一二実



**問** 水道事業において、水道スマートメーターを導入する考えは。

**答** 水道部長／水道スマートメーターの導入は、検針業務の効率化や、水道使用量の見える化によるサービスの向上などが期待できる。今後、周辺市町の水道事業者やライフライン事業者との連携を模索するとともに、他市の実証実験の結果や費用対効果を検証しつつ、中長期的な視点で検討していく。

